

クローン病の再発と再手術
一病変部位と予後

Recurrence and Reoperation for Crohn's Disease. The Role of Disease Location in Prognosis: M.R. Lock, R.G. Farmer, V.W. Fazio, D.G. Jagelman, I.C. Lavery, F.L. Weakley (N Engl J Med 304: 1586~1588, 1981)

クローン病の術後再発は3~100%と報告されている。この相違は、再発の定義、病変部位、経過観察の方法、データの分析法など多くの要因に基づいている。

1955年から1973年までにクリーブランドクリニックで取り扱ったクローン病は1,089例である。このうち手術例は391例で、吻合術のみの30例を除外し、361例が再発による手術の必要性を検討する対象となった。なお、平均経過観察期間は11.5年である。このうち、病変の小腸限局例が108例(30%)、大腸限局例107例(30%)、大小腸侵襲例146例

(40%)であった。男178例、女183例で、最初の手術時の平均年齢は31.9歳(7~72歳)であった。手術死亡は7例、1.9%を示した。123例(34%)が再発での手術を要した。大腸限局例では24.3%、小腸例では28.5%、大小腸例では43.8%が再手術を受けた。再発は、性や手術時年齢との関連を認めなかった。再発率は年3.9%で、8年での累積再発率は $31.2 \pm 2.6\%$ となり、全再発の85%がそれまでに起こった。8年以後の再発率は年1.4%と下降し、15年以上の経過観察例40例中、再発は2例に認めたにすぎなかった。最初の手術から24年後の累積再発率は、 $54.8 \pm 10\%$ であった。病変部位別の14年後の累積再発率は、小腸例で $38 \pm 6\%$ 、大腸例で $32 \pm 6\%$ 、大小腸例では $50 \pm 9.6\%$ を示した。再発で切除を受けた123例中43例(35%)が3回目の切除を受けた。このうち26例(60%)が大小腸例であり、4回目以後の9例中7例、5回目以後の3例全例が大小腸例であ

った。

最初の手術から8年以後、再発率が急速に低下することは、クローン病の再発が永久に続くものでない可能性を示唆している。Farmerが以前に報告したごとく、疾病の侵襲部位がその後の経過の鍵を握っている。大小腸侵襲例では、再発再手術の可能性が最も大きいことを示した。

【訳者注】

クリーブランドクリニックのクローン病に関するデータは、その大きさから常に他を圧倒し、説得力がある。筆者の経験例でも、組織学的に確認された3例はいずれも大小腸例で、3例とも最初の手術後8年以内に3回の手術を受けた。このまま永久的に手術の繰り返しかと思っていたが、この論文を読み、8年以後の再発率が急降下するのを知り、今後に希望を持たせてくれた。

(愛知県がんセンター第1内科

小林世美 抄)